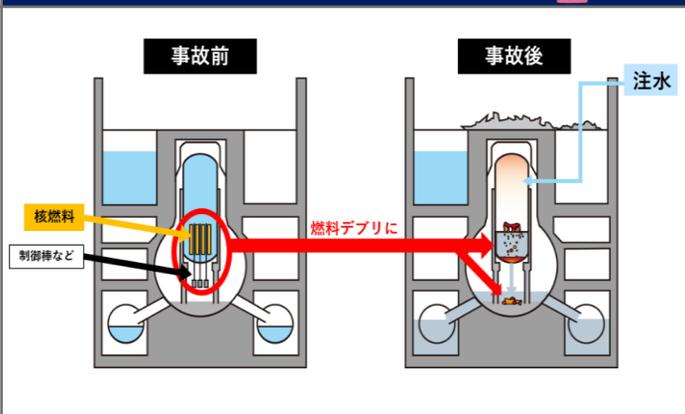


『燃料デブリについて』

燃料デブリに関する素朴な疑問について、受入れを行った大洗工務研究所に伺いました。



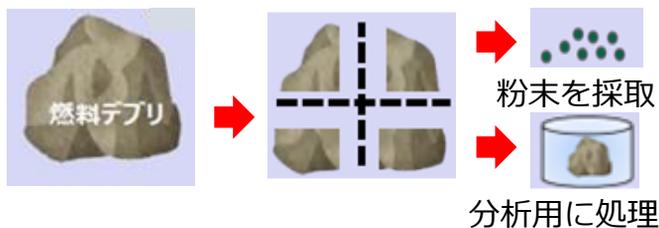
『燃料デブリ』ってなに？



「燃料デブリ」は、核燃料が溶けて原子炉内の構造物と混じりながら冷えて固まったものです。

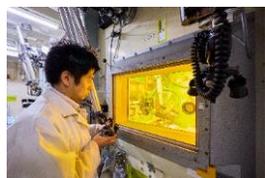
燃料デブリは、その詳細な成分や性質等がわからないため、様々な分析を行い、成分・性質等を明らかにするとともに、事故当時の原子炉内の状況の推定などを行います。

分析方法は？



燃料デブリを強固なコンクリート等で囲んだエリアの中に入れ、マジックハンドのような機器により遠隔で分析のための処理を行い、パソコン操作で分析を行います。

安全対策を万全に行った上で作業を行い、分析終了後、燃料デブリは、福島第一原子力発電所に返却されます。



遠隔操作の処理



パソコンで分析

分析結果は何に役立つの？



福島第一原子力発電所の事故時の状況や燃料デブリの今後の取出し工法・工具等の選定、保管方法を検討する際に活用されます。

いつ頃分析結果が出るの？



1年程度の時間をかけて、詳細な分析を行い、その結果は公表されます。



デブリの分析は、福島第一原子力発電所の廃炉に向けての第一歩じゃ！長い道のりじゃが着実な一歩じゃぞ！

大洗町内の放射線等の状況

東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故により拡散した放射性物質による環境への影響を把握し、町民の安全確保と不安を解消するため、平成23年3月の事故発生から大洗町は、学校等の空間線量率の測定や、水道水等の放射性物質濃度の測定を行い、安全である事を確認しています。

空間放射線量率のデータ

平成23年3月の福島第一原子力発電所事故発生以降、監視を強化しています。事故直後の3月15日に大貫局で毎時4.2マイクロシーベルトを観測しましたが、それ以降空間線量率は減少し続けています。

令和6年11月1日の値は、大貫局(大洗高校)で毎時**0.047**マイクロシーベルト、磯浜局(大洗小学校)で毎時**0.045**マイクロシーベルトです。

なお、事故前のデータは、毎時0.040マイクロシーベルト程度でした。

水道水の放射線の状況

平成23年4月1日から（国）日本原子力研究開発機構大洗研究所に依頼し、原則毎週測定を実施してきました。

放射性ヨウ素については、平成23年4月8日以降は毎回「不検出」です。直近の令和6年4月11日の測定でも、**放射性ヨウ素 不検出**（検出限界値0.33ベクレル/リットル）、**放射性セシウム 不検出**（検出限界値0.46ベクレル/リットル）となっています。

令和6年度の学校等の空間線量測定結果

町では小中学校、幼稚園、保育園等の空間線量率を年に1回測定しています。この測定値は、文部科学省が目安として示している、年間の被ばく上限1,000マイクロシーベルトを十分に下回っており、健康に影響のある数値ではありません。

学校等の名称	測定場所	高さ	測定日	測定値 (マイクロシーベルト/時間)
祝町幼稚園	園庭	50cm	10月25日9時00分	0.067
大洗小学校	校庭	50cm	11月15日9時01分	0.093
南小学校	校庭	50cm	11月15日10時50分	0.067
第一中学校	校庭	1m	11月15日9時27分	0.077
南中学校	校庭	1m	11月15日10時31分	0.063
第一保育所	園庭	50cm	10月25日9時22分	0.073
こすもナーサリー	園庭	50cm	10月25日10時46分	0.069
大洗かもめ保育園	園庭	50cm	10月25日9時45分	0.085
ひじり保育園	園庭	50cm	10月25日10時25分	0.077
恵泉保育園	園庭	50cm	11月15日10時04分	0.079
みなみ学童	園庭	50cm	11月15日11時02分	0.067